

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200888		
法人名	有限会社日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・四日市		
所在地	三重県四日市市赤堀1丁目6-2		
自己評価作成日	令和3年7月27日	評価結果市町提出日	令和3年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「あなたらしく いつまでも」を職員全員が理解し、大切にしています。自立支援を意識しながら、“笑顔を作る介護”を最も優先して取り組んでいます。季節に応じたイベントや外出を取り入れ、1日1日を大切に、楽しく過ごせる様にと考えています。健康管理においては、協力医療機関の方々の協力を得て、密に報告・相談を行い、必要時には専門医への受診にも繋がっています。各担当者は毎月のご様子を手紙にまとめて家族様に報告をしたり、写真付きの事業所便りを年に4回発行しています。コロナ禍の影響で面会や外出に制限がありますが、利用者様・家族様の繋がりは途切れない様にウェブ面会等を行い、共に支え合いながら生活しているという気持ちで日々過ごして頂ける様に努めています。受診時の結果・その後の様子、外出時等のご様子はその都度細めにメールや電話で連絡を行い、信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市市の中心街にあり、近所には保育園が2件、他にもヤクルトの保育所もあり、賑やかな子どもたちの声が聞こえる。今年は叶わなかったがヤクルトの保育園の子どもたちとは毎年夏まつりを一緒に楽しむなど地域との交流も盛んである。コロナ禍での面会は玄関で2m離れて行ったり、ウェブ面会は約半数の家族が使用されたりと良好な関係を維持している。基本理念である「あなたらしく いつまでも」を常に念頭に置き支援しているが、更なるレベルアップの為に研修も多く、又すぐに実践し、3か月後に評価し見直すなど徹底している。この自己評価も全職員が取り組み、利用者の想い等原点到立ち返り更なる支援に繋がっている。家族や行政の信頼も厚い。ほっと癒してくれる人気者の「ちまき」と言う名の猫と共に、来年20年を迎える落ち着いた平屋建ての1ユニットの事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしくいつまでも」の理念に沿い、生活環境が変わってもその人らしく生活が出来る様に支援している。玄関には介護理念を、事務所には職員の倫理規定を掲示している。	利用者には自分で出来るよう全ての物が定位置に置かれ、家族には家族として出来る事への助言をしたり、職員へも作品作り、裁縫、ケーキ作り等得意分野を活かす工夫をしている。利用者だけではなく関わる全ての人に、理念及び自立支援に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣の方や、近くの保育園の方々(園児含む)に積極的に挨拶を行っている。コロナ禍で交流イベントは中止しているが、地域の学童から祭等での交流は出来ないが手作りマスクをプレゼントしたいと相談があり受け入れ、その後手紙のやり取りもあった。	コロナ禍で大変な状況の中、毎年夏祭りに参加し、交流のあった学童の子供たちから、マスクとストラップのプレゼントをしたいと引率の先生と一緒に玄関前の庭でお会いした。庭で待っていた利用者と気を付けながら写真も撮った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍で受け入れを休止しているが専門学校や大学からの実習生の受け入れを行っている。今秋から実習生受け入れ再開の予定としている。運営推進会議の議題でも利用者様の生活の様子を取り上げて、支援方法等をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は集合形式ではなく、2か月に1度文書での事業報告を行っている。日頃の取り組みやヒヤリハット・事故を報告している。報告に対してその都度アンケートを取り、次回開催時にアンケート集計も渡している。サービス向上に生かせる様に努めている。	現在は「事業報告」「ヒヤリハット・事故報告」「地域交流」「運営推進会議」「看取り」「その他」などについて、家族に意見・要望を記入し、事業所へ返信して頂いている。それに対し返答を記入しサービス向上に活かしている。又議事録として今までの参加者に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はコロナ禍で介護相談員の受け入れを休止しているが、市役所、包括、介護相談員へ運営推進会議の議事録や施設通信等を届けている。日頃から市とは総体的に緊密な関係を築いている。	運営推進会議の議事録について、分かりやすい議題と内容の充実さなど感心されている。介護保険法の改正時の報告や提案などにも積極的である。緊密な協力体制が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に外部研修に参加し3か月に1回身体拘束適正委員会を開催し全職員が十分に理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。防犯の為に夜間のみ施錠しているが基本的に解放して自由に行き来出来る様にしている。	身体拘束については、全職員が定期的な研修や会議などで理解している。年間月次目標に記載、3ヶ月毎に身体拘束適正委員会を開催し、議事録にて再認識し、身体拘束をしないケアを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に全職員が外部研修やOJTに参加し、しっかり理解して取り組んでいる。会議で研修内容を報告・共有する事で改めて注意喚起している。特にスピーチログについてはきちんとした知識がないと判断が曖昧になりがちで虐待に繋がる事がある為、行動の抑制や、尊厳を否定する様な言葉は使わない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し、会議で研修報告・共有している。必要性が高い方には出来る限り、最大限の情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様及び家族様に、安心して利用出来る施設だと納得して頂いた上で契約をしている。契約時には施設見学と十分な説明を行い、不安や疑問の聞き取りをして丁寧な対応をする様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在コロナ禍で面会制限中の為家族様に直接お会いしてご意見を頂く機会は減ったが、運営推進会議の際アンケートを配布する事で今まで以上に様々なご意見を頂けている。電話やメール等を使用し、家族様の思いや要望を反映している。利用者様からのご意見も日々の生活の中で出来る限り反映する様努めている。	家族とは今までも関係性は良好だったが、運営推進会議の事業所からのアンケートへの熱心な意見に関係性が強度になっている。ヒヤリハットへの意見も多く、又すぐに事業所も対応し取り組んでいる。信頼度も強度である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とコミュニケーションを図り意見交換や提案をしやすい環境作りに努めている。毎月定例会議で意見や提案を話し合う場がある。会議に参加出来ない職員の意見も事前に確認し、議題に挙げている。又、直接社長に要望が届く様に週報等を活用している。	年に1回から2回法人の代表と面接があり、意見や提案を聞ける風通しの良い関係である。施設長や管理者は、職員会議や日々の勤務の中で要望や意見も気楽に話し合え対応も早い。施設長は現場の中心である管理者から話してもらうように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいや向上心を持って働ける様に外部研修は常に提示し、誰でも参加出来る様にしている。能力に見合った報酬を定めたり、見直す為に自己評価や定期的な個人面談等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容は提示され、様々な研修を受ける機会がある。研修後の報告書は、三ヶ月後に振り返って自己評価する事で、より知識を深める事が出来ている。職員の悩みや力量を考慮し、適切な研修に参加出来る機会を設けたり、OJTを行う等している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍の為他事業所と直接的な交流を持つ事を控えているが、積極的にZoom研修等に参加する事でオンライン上ではあるが、他事業者との意見交換や、アドバイスを頂く事が出来、サービスの質向上に繋がる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様・家族様の両方と面会を行い、困っている事や不安、要望等を把握し、安心して頂ける様に努めている。可能な限り入居している利用者様方と簡易レクやおやつに参加して頂き、施設の雰囲気に触れて頂ける時間を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接、見学をして頂き、不安や要望や困っている事等を聞いている。同時に施設で出来る事や方針についてもお伝えし、信頼関係を築ける様に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状況や生活環境等の情報収集を行い、サービスを導入する段階で本人様と家族様に必要とする支援を提供している。その際に他のサービスの利用も提案している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々コミュニケーションを図る中で、様々な個性を持つ利用者様と職員が共同生活を送る者同士として一方的な関係にならない様に努めている。利用者様一人一人に無理の無い範囲で役割を持って頂き、支え合える関係を目指している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様との繋がりが途切れない様に、入居後は近況報告を手紙やちまき通信として送付している。日々の写真や動画、体調の変化や事故報告等はメール等を活用して細かく状況報告・相談を行い、家族様も共に支えていると感じて頂ける様に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で面会制限を継続している。本人様や家族様からの要望及び職員からの提案で電話やウェブ面会を推奨し、行っている。関係が途切れない様に努めている。	面会は少ないが、家族とは運営推進会議のアンケートや手紙、電話・ウェブ面会等、以前より密な関係である。昔近所の子どもが折った千羽鶴を一羽ずつ画用紙に貼り壁に掛け、思い出を語り合う等関係は途切れていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席のバランスに配慮し基本的には利用者様同士の関係は見守りしている。テーブルに集合しレクやイベントを行う事が多い。他に洗濯や食器拭き等得意な利用者様を中心に、同じテーブルの利用者様同士協力して頂ける様に支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談があれば受け付ける体制をとり、必要があれば利用者様や家族様のケアに努める姿勢をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を伝えられる方は日常のコミュニケーションの中でその思いを把握し添える様に努め、言葉で伝える事が難しい方には表情や動作、家族様への聞き取りや本人様の過去の発言等も参考にし、本人様の想いに添える様に努めている。	日常生活の中でふとした仕草・ひとり言・他愛ないお喋りなどや外出時では、一人ひとりの動きや会話、仲間への思いやり、外出の感想等から利用者の思いや要望・希望を読み取り支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様との会話である程度の生活歴や環境、これまでのサービス利用経過等の情報を把握し、入居後は本人様との会話の中で今までの馴染みの暮らし方等の把握に努めている。本人様との会話で得た情報を家族様と共有し、その人らしい暮らしが提供出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の毎日の過ごし方を大切に、言動や表情の些細な変化も記録に残し、申し送りを行っている。月一の定例会議では上記の記録や観察経過を基に話し合い、適切なケアが行える様に職員同士の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族様の情報、意向や希望を踏まえ、毎月の定例会議でカンファレンスやモニタリングを行っている。職員の意見や現状報告の他に協力医療機関からの意見も取り入れ、介護計画に反映している。	日々の支援から気付きや変化などを記録したノート、各利用者の担当者からの本人・家族の要望などを毎月の職員会議にて話し合い、3ヶ月毎モニタリングし次のプランへと繋げている。完成したケアプランを介護支援専門員が説明し、全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きや状況、バイタルや排泄に関しても個々に細かく記録し、口頭の申し送りでより詳しく伝え、カンファレンスに繋げている。カンファレンスで話し合った内容は記録ノートにまとめ、全職員が確認しサインしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナ禍で不要不急の外出は控えて頂いているが、専門医への受診対応や、利用者様や家族様から要望があれば外出の参加支援が出来る体制をとり、可能な限り柔軟なサービスを提供出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の時には近隣の方や、近くの保育園の方々(園児含む)に積極的に挨拶を行い、地域の方と交流を持つ事で安全な環境作りを行っている。地域のサロンにも継続的に参加していたが、コロナ禍で中止している。再度開催されれば参加させて頂き、地域の方と再び馴染みの関係を築いていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長期に渡り近くのかかりつけ医院の協力を得ている。急性期等で必要な時には、電話で状態報告、相談を行い受診に繋げている。受診が困難な場合には往診対応をして下さる。随時家族様へは報告と相談を繰り返し、出来る限り希望に沿った医療を受けられる様に支援している。	協力医とは長い付き合いがあり、週1回協力医の看護師も勤務しており良好な関係である。綿密な情報提供によりの確な診断や相談もできており、緊急時の対応にも協力的である。受診後は手紙やLINE等にて家族へ報告し、利用者・家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、協力医院の看護師が勤務している。些細な体調の変化でも気付いた事は、全て口頭及び健康チェック表を使い報告、相談を行っている。必要時には主治医への報告や往診に繋がる様に連携を取っている。医師からの指示薬を塗布している経過等も観察して頂き、主治医へ状態を伝えて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報交換を行い、可能な限り面会や電話連絡を行い、現状把握に努めている。得た情報は随時、家族様や協力医療機関とも共有をして、退院後も安心して生活が送れる様な関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で意向の聞き取りを行っている。重度化や終末期においては、状態の変化に合わせてその都度、家族様や主治医と話し合いを持ち、臨機応変に対応している。必要時には訪問看護の受け入れも行き、チームで穏やかな最期を迎えられる様な支援に取り組んでいる。	「看取り介護」の丁寧な説明と、事業所のできる支援を運営推進会議の議事録にて報告したところ、「一番大好きな場所で看取られるのは本当に有難い」「顔馴染みの方々に見守られて最期を迎えられたら最高だなあ」など家族の声があり、協力チーム一丸となって丁寧に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、急変時の初期対応の流れは詰め所に掲示しており、全ての職員は把握している。夜間帯等の職員1名体勢の時に発生した場合は、管理者や他の職員に情報をすぐに共有し、相談やフォローが出来る体勢を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災、水害、夜間等を想定し、年に6回以上の訓練を行っている。防災用品や非常食等も備蓄しており、定期的に消費期限等の確認をし、ローイングしている。職員定例会議や運営推進会議でも定期的に話し合いを行っている。	今年5月12日に四日市市消防本部から「日頃から防火防災の強化に積極的に努めている。」と評価を受け、表彰状を頂いた。玄関には利用者が賞状を受けている写真がある。法人・事業所・職員・利用者・家族など、一丸となって対策に取り組んでいる。	コロナ禍の現在、事業所内での訓練が中心である。この機会に毎日レクリエーションをする感覚で訓練を行い、いざと言う時に慌てず混乱せず動ける体制が整う事を希望する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の介護理念にある「あなたらしくいつまでも」を大切に個人の人格を尊重し、尊厳を傷つけない様に会話内容や声のトーン等にも配慮している。スピーチロックについてOJTを行い、正しい知識を持って声掛けを行っている。	一人ひとりの個性や性格、現状の精神や身体の状態などを小まめな支援から把握し、尊厳に注意しながら日々対応している。また尊厳についての研修や話し合いを重ね、対人援助の基礎であると心掛け支援に活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中等から本人様の希望を聞き取り、理解し、職員間で共有し自己決定に繋がる様に支援している。入浴の有無、献立の内容等、日常生活の色々な場面で出来る限り個々の希望を取り入れている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の大まかな流れや行事等はあるが、個々の流れ(入浴時間、お昼寝の有無等)はその都度お聞きし、可能な限り個々の希望を取り入れられる様に努めている。意思疎通が困難な方への配慮は忘れない様にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に毎日の整容や洋服はご自身の好みで組み合わせて頂いている。必要時は体調に合わせて、職員と一緒にコーディネートを考えたり、声を掛けさせて頂いている。定期的にヘアカットに来て頂いているが、髪型は本人様の希望に添ってカットして頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや食べたい物を聞いたり、季節を感じられる様に旬の食材を取り入れている。お誕生日には、その方の食べたい物を用意したり、イベント行事には盛り付けや、飾りにも工夫をしている。食事の前には、メニューの説明をしている。	週2回位の昼食と週5回の夕食は業務委託であるが、他は事業所の手作りで利用者と共に作っている。デザートは管理者が作り、プロ級の出来だと手作り料理と共に高評価を得ている。常日頃、五感を刺激しながら食事を楽めるように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態や量に配慮し、栄養バランスに気を付けている。定期的な水分補給を心掛け、水分不足の利用者様がみえる時は、1日の水分量を記録し、水分補給量に気を付けている。定期的に血液検査を行い、栄養状態について主治医にも相談している。必要に応じて、栄養補助食品も取り入れている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に歯磨きを支援している。自身で磨く事が困難な方には、職員が介助を行い、必要に応じて、口腔内ウエットや口腔ケア用スポンジを使用している。定期的に訪問歯科医による口腔内のチェックをして頂き、アドバイスを受け、口腔内の清潔を保てる様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し声掛け、トイレ誘導している。入所時リハビリパンツを履いていたとしても排泄パターンを把握する事で布パンツとパッドの使用で過ごして頂ける様な支援を行っている。	ベット上でのオムツ対応の方が、介助にて動く事が出来るようになった時点で布パンツとパットに変えた。今も現状維持で元気である等、布パンツに力を入れている。日中は布パンツが2名、布パンツとパットが7名と快適に過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間排泄チェック表を活用し、個別への支援をしている。主治医や薬剤師と連携を図り、服薬に関しては適宜細かく調整している。水分補給や体操等も意識して取り入れて出来る限り自然な形で排泄を促す事が出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や行事があっても時間を調整して出来る限り利用者様の希望に添った入浴支援が出来る様になっている。週6で入浴される方もみえる。入浴の有無や順番は利用者様と考えられる様声掛けを行っている。	一人ひとりの希望や状況によって午前か午後かを決めている。基本的には週3回から4回だが、毎日入浴される利用者もいる。入浴は利用者との会話を重視し、ゆったりと入るように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールでテレビを見ながらウトウトしたり、玄関のベンチに座って庭を眺めながらゆっくりと過ごす時間が持てる様にしている。夜一人で眠るのが寂しいと言われた方に犬のぬいぐるみをプレゼントすると「あの子(ぬいぐるみ)が居るから寂しくないの。ゆっくり眠れる」と言われた事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備でミスが起こらない様に職員2名による薬チェックを行い、利用者様に服用して頂く時は名前、日時、錠数を声出し確認し、飲み込むまで見守りしている。症状の変化等は定期的に話し合い、主治医や薬剤師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や食器拭き等、日々の生活で出来る事をして頂き役割の一つとして捉えている。お手伝い後の珈琲も喜ばれている。外出、ドライブ、室内イベント等にも力を入れ、気分転換や楽しみを感じて頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ対策として不要な外出は控えている。車外には出ず、景色を楽しめるようなドライブや、空いている時間帯を考えて公園等で季節の花や空気に触れる事が出来る様支援している。	昨年秋の芋ほり、お正月近所の神社へどんど焼き、今年5月バラ園見学、ドライブ(桜・藤)など対策に注意しながら外出を楽しんでいる。どんど焼きではあまりの炎の強さに周りの木を心配される利用者など、外出では沢山の気付きにも出会える。利用者にも職員にも貴重な時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の同意を得て、一定金額のお金を所持して頂く事は可能としている。現時点では希望される方がみえない為、所持している方はいない。利用者様の希望があればお金の所持や、買い物時の支払いを支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を希望される方は都度電話をお渡ししている。家族様から荷物等が届いた場合にも電話でお礼や、話ができる様に支援している。手紙のやりとりも積極的に出来る様支援しており、郵便局まで散歩し、ご自分で葉書を選んで購入された方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様、利用者様と一緒に作品を制作し展示している。快適に過ごせる様な空間作りに努めている。ホールには新聞、雑誌、個々の湯呑等が手の届く所にありご自分のタイミングで選択出来、居心地よく過ごせる様にしている。	玄関を入った目の前には、外出やイベントで楽しんだ物を飾り回想に繋げている。今は夏祭りの手作り提灯、前は藤棚見学で見た沢山の藤が下がり会話が弾んでいる。フロアは全居室・トイレ・浴室が見え、安心・安全に繋がり、又壁面は沢山の飾りに包まれ、明るく居心地良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビや雑誌を見たり、気の合う方と談笑を楽しむ方、居室で身体を休める方、おやつを楽しむ方、個々が思い思いに過ごせる居場所、時間を持てる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様や家族様と相談し、以前から使用している慣れ親しんだ物を持って来て頂ける様にお話をしている。居室には家族様やペットの写真、ご自分で作った作品等を飾り、居室が居心地の良い空間になる様に配慮している。	入居時より利用者の慣れ親しんだ物が個々に使いやすいように配置されている。またタンスの引き出しには何が入っているからラベルが貼られ、テーブルの上に置いてある物等も自然と自立支援ができる様に定位置に置くようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活用品はいつも同じ場所に置き、利用者様のタンスには必要時にラベルを張る事で分かりやすく自立した生活が送れる様にしている。ADLの状態等を考慮し、安全かつ自立した生活が継続出来る様に定期的に検討し、安全な環境作りに努めている。		